

SHOW HEY シネマルーム

★★★★★

39 〔刑法第三十九条〕

1999 (平成11) 年5月1日鑑賞

Data

監督：森田芳光

出演：鈴木京香／堤真一／岸部一徳
／吉田日出子／山本未来

👁️👁️ みどころ

「心神喪失＝無罪」－この是非は？司法試験の受験生は必見。

<心神喪失・心神耗弱>

法学部の学生や司法試験を目指している受験生は必見の映画。

刑法第39条「心神喪失者の行為は、罰しない。心神耗弱者の行為は、その刑を減輕する」。

「心神喪失＝無罪」を定めたこの条文をめぐるのは、様々な社会問題が提起されてきた。最近の生々しい事件は、何と云っても、2001 (平成13) 年6月に発生した、大阪教育大付属池田小学校における宅間守による児童殺傷事件。「精神異常ではない」との判断の下に、9月、宅間被告人は起訴されたが、これから長い裁判が始まり、結果はどうか、予断を許さないはずだ。

この映画は、はっきり言って、見ていてそんなに気持ちのいいものではない。首吊り自殺のシーンや、海岸の砂での生き埋めシーン、そして2重(多重)人格者を演ずる堤真一の、役になりきった、狂気を感じさせるような演技・・・見ていてしんどくなってくる。

「天下の美人女優」、鈴木京香が、メガネをかけて、本来の華やかさをすべて隠してしまい、性格の暗い精神科医になりきって、被告人の精神鑑定に必死にとり組む。また、昔のグループサウンズ全盛時の、「ザ・タイガース」のリーダー岸部一徳や、樹木希林、江守徹、杉浦直樹などの芸達者役者が脇を固めて、精神鑑定をめぐる、難しい役回りを演じている。

難しい言葉がポンポン出てくるし、逆括弧、表情だけによる無言の訴えもたくさんある。とにかく観ていてもしんどくて、難しい映画。しかし、必見の映画であることは間違いない。「さすが、森田芳光監督」と感心させられる出来となっている。

2001（平成13）年9月記